

作曲と即興演奏～音楽を通じてコミュニケーションをするために

多くの人々にとって謎に包まれた作曲や即興演奏のプロセスを明らかにして、誰でも自分自身の音楽を創ることができるということを体験していただく講座です。

とはいえ、難解な作曲技法や高度な演奏技術を解説したり、逆にありきたりな音楽理論の説明に終始するのではなく、直ちに理解、実践可能なコンセプトでありながら、習熟度、理解度に合わせて自ら発展、開発していくための方法を、音楽の歴史や理論とその背景をトピックに交えながらプレゼンテーションをします。

トム・ラーソン (ピアノ・作曲、ネブラスカ大学リンカーン校芸術学部音楽学校助教授)

田丸智也 (ベース・作曲、東海大学高輪教養教育センター准教授)

渡邊晋 (指揮・作曲、東京ブラスアートオーケストラ芸術監督)

2019年6月14日(金) 17:30-19:00

東海大学湘南キャンパス10号館3階【スタジオソナーレ】

*参加費無料 (10号館3階音楽準備室にてお申し込みください)

*管弦楽器等の演奏者は楽器持参でご参加ください



トム・ラーソン (ピアノ・作曲、ネブラスカ大学リンカーン校芸術学部音楽学校助教授)

現在、ネブラスカ大学リンカーン校 (University of Nebraska-Lincoln: UNL) グレン・コフ音楽学校にて、作曲、ジャズ・プログラム、及びデジタル・メディア・アーツに関する指導を担当。また、UNLジャズ科教授陣によるファカルティー・ジャズ・アンサンブルの音楽監督として活動。

ピアニストとしてDave Stryker, John Ellis, Victor Lewis, Jerry Bergonzi, Jackie Allen, Paul Shaffer, Chris Potter, Bobby Shew, Claude Williams, Bo Diddley, オマハ交響楽団等と共演。2014年にはUNL Faculty Jazz Ensembleとしてモンタレー・ジャズ・フェスティバルに出演。

作曲家として、全国ネットの教育番組放送であるPBS American Experience series, Ashes from the Dust for NOVA (WGBH, ボストン)、ピボディー賞を受賞した Around the World in 72 Days, Monkey Trial, In the White Man's Image といった数々の番組に音楽を提供。

自身のプロダクション会社を経営、数々のドキュメンタリー映画、TVコマーシャル、ローカル及び全国ネットのテレビ番組、ビデオ作品等に音楽企画制作を行う。

また、レコーディング・エンジニアとして、Paul Barnes, Jackie Allen, Hans Sturm, François Rabbath, The Nebraska Jazz Orchestra等の録音、ミックス及びマスタリングを行う。

著書として「The History and Tradition of Jazz : ジャズの歴史とその伝統」、「The History of Rock and Roll : ロックの歴史とその伝統」、「Modern Sounds: The Artistry of Contemporary Jazz : モダン・サウンド: 現代ジャズの技法」があり、それらの全てをKendall/Hunt Publishingより出版。

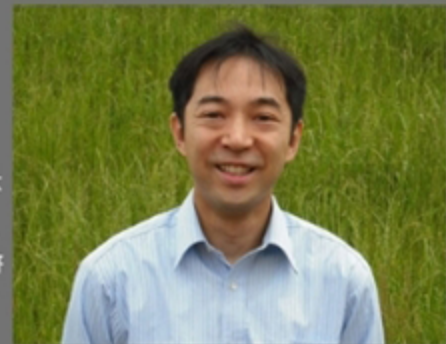
田丸智也 (ベース・作曲、東海大学高輪教養教育センター准教授)

東京都町田市出身。9歳からトランペットを、14歳からベースを始める。トランペットを植木保彦氏に、和声学、作曲法を高浪言一氏、二宮洋氏に師事。1999年、バークリー音楽大学 (Berklee College of Music - Boston, MA) の奨学金試験に合格し同校に入学。

ベースをアンソニー・ヴィッティ (Anthony Vitti) 氏、作曲をディック・ローウェル (Dick Lowell) 氏に師事。

2001年、ジャズコンポジション科卒業。

帰国後、音楽制作会社にて映像向けのBGM制作を行う傍ら、ベーシストとして演奏活動を行う。専門学校、短期大学の作曲の非常勤講師を経て、2008年に東海大学専任講師となる。現在、東海大学高輪教養教育センター准教授。専門は作曲、ポピュラー音楽史 (ジャズ)。主な担当授業は「ジャズの音楽と歴史」「即興演奏法」「コンピュータミュージック」「ミュージッククリエーション」。2014年より、ジャズに関する公演、公開講座などの教育・啓蒙活動、大学周辺 (東京都港区) の多世代交流を目的とした音楽ボランティア活動を活発に行う。ベース以外にもトランペット、コルネット、フリューゲルホルン、ピアノなどを演奏。



渡邊晋 (指揮・作曲、東京ブラスアートオーケストラ芸術監督)

1999年1月に渡米。バークリー音楽大学、マサチューセッツ大学アマースト校大学院音楽学部、ニューヨーク市立大学クィーンズ校大学院にて学ぶ。バークリー音楽大学にてジャズ作曲の学士号、ニューヨーク市立大学大学院にて作曲の修士号取得。

現在、東京ブラスアートオーケストラ (2006-) のアーティストック・ディレクターとして活動。

2011年アメリカ吹奏楽協会 (National Band Association) によるジャズ作曲コンテストにて、オリジナル作品「Duodecim for Jazz Orchestra」がジャズ作曲賞受賞。同年12月にシカゴで開催された吹奏楽の世界大会 Midwest Clinicにて、入選作品をアメリカ陸軍野戦部隊バンドと共に自身の指揮で演奏。

2011年オリジナル作曲作品のみ収録の東京ブラスアートオーケストラ (TBAO) フェーストCDアルバム「アンティフォネミクス」を発表、全国発売。

2018年第3回シンフォニックジャズ&ポップスコンテスト全国大会課題曲公募にて、オリジナル作品「With All Sails Set for Wind Orchestra」が第1位入選、2019年度以降の課題曲として採用される。

2017年8月より、ネブラスカ大学リンカーン校にてDoctor of Musical Artsの取得を目指してHixson-Lied Graduateフェローとして、博士後期課程に在学中。ネブラスカ州リンカーン市在住。

主催：東海大学教養学部芸術学科音楽学課程

助成：ネブラスカ大学リンカーン校 University of Nebraska-Lincoln

Hixson-Lied College of Fine and Performing Arts

Glenn Korff School of Music